

令和 6 年 度 事 業 報 告

令和 6 年度は、一般社団法人になり 12 年目であった。

令和 2 年 1 月から流行した新型コロナウイルス感染症は、令和 6 年度も全国的に流行が続いていた。令和 6 年度も新発田地区救急診療所の受診者数は前年よりは減った。また、インフルエンザの流行もあり、両方の流行が断続的に続いた。

「休日・夜間院外処方せん応需事業」については、新型コロナウイルス感染症流行が続きインフルエンザも流行した。新発田地区救急診療所は前年に比べて患者数が減り、赤字で終わった。

平成 27 年度より受託した中条地区休日診療所の調剤業務は今年度も順調に行われた。村上市では、インフルエンザが流行したが出務依頼は無かった。

本会が継続運営している FAX コーナーについては、坂町病院のエニファーマシーの入れ替えを行い、画像送信の割合を上げていただくように会員に処方せん受信プログラムの導入をお願いし、経費節減に努めた。

支援センター薬局については、令和 5 年度に比べて処方せん応需枚数は減った。複数の腹膜透析の患者さんが血液透析に移行したことなどで、赤字で終わった。

不動産在庫医薬品売買支援事業については、4 月から運用を開始した e-STock を使って売買を行った。人件費などを差し引くと令和 6 年度も赤字となった。

在宅医療への参加については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、進展はなかった。ときネットも参加薬局は増えてはいない。村上地区においても同様な動きであった。

管内での薬学生実務実習は、1 期 2 名と 2 期に 4 名、3 期は 1 名の受け入れがあった。集合研修は卸の見学だけを行い、実務実習指導薬剤師同士の交流はなかった。

令和 6 年度は、学校薬剤師報酬の値上げの要望書を、管内の行政に提出したが、報酬の値上げはなかった。しかし徐々にではあるが、市町村による検査機械の購入も増えてきた。

[重点事業報告]

1. 「休日・夜間院外処方せん応需事業」は、令和 6 年度も新型コロナウイルス感染症は断続的に患者さんが続いている状態だったが、流行は令和 5 年度ほどではなかったため、患者数は減った。インフルエンザは例年通りの流行だったためか応需処方せんの枚数は減り、減収となった。

処方せんは新発田地区救急診療所だけに限らず他医療機関からも受付けており令和 6 年度は 42 医療機関から応需した。前年度よりは応需医療機関の数は増えており、当事業を行なうことにより地域医療に貢献することができた。

また、中条地区休日診療所薬剤師派遣事業は、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの流行があり、前年よりは受診者数は増えた。

村上急患診療所への薬剤師の派遣は、インフルエンザの流行はあったが派遣は見送られた。

2. かかりつけ薬局推進事業は、今年度も皆様のご協力により順調に事業は継続された。
令和 6 年 6 月に新潟県立坂町病院のエニファーマシーの入れ替えを行った。FAX コーナーは院外処方せんの通過枚数が減少傾向にあり、通過単価を抑えるために東邦薬品の「処方せん受診プログラム」の利用を推進し、経費削減に努めた。(4 ページ参照)
3. 下越薬剤師会支援センター薬局は、前年度より処方せん枚数が約 160 枚程度減り、収入は約 770 万円減った。新型コロナウイルス感染関連の処方が減ったことや、腹膜透析の患者さんが激減していることが減収の原因と考えられる。年度途中で資金繰りの悪化が予想されたため資金の借り入れを行った。経費の削減も行ったが、赤字で終わった。
4. 不動産在庫医薬品の買取・譲渡は、売買率の変更はなかった。全体的に取扱い品目・金額共に減った。令和 6 年度からシステムを変更し「e-STock」を使って売買を行った。令和 6 年度の会員薬局利用件数は延べ 109 件だった。選定療養制度が始まり、先発品の割合が増えたこともあり、前年度と比べ買取額と販売額はともに増え、差損益も増えたが、帳票等の販売も含め人件費などの経費を差し引くと事業としては赤字となった。
(5 ページ参照)
5. 在宅医療の推進は、多職種との研修会も少しはあったが、大きな進展は無かった。
ときネットは大きな進展は無かった。
6. 今年度の研修会は昨年度に比べて、開催回数は減り、参加人数も減った。Web の研修会が大半を占めた。研修単位をつけた研修会だけで年間 7 回、参加総人数は延べ 195 名であった。(6 ページ参照)
7. 情報委員会は、e-STock の使い方などを会員に説明した。また、下越薬剤師会ホームページのメンテナンスと改良等を行った。
8. 薬学生実務実習委員会の活動は、集合研修を 1 回行うことができたが、実務実習指導薬剤師の交流は無かった。

[項目的事業報告]

1 会 議

- ・ 総 会… 令和 6 年 6 月 29 日 (北辰館会議室にて)
令和 7 年 3 月 29 日 (下越薬剤師会支援センター2 階会議室にて)
- ・ 理 事 会… 令和 6 年 6 月 6 日、6 月 29 日、7 月 27 日、11 月 16 日
令和 7 年 1 月 8 日、3 月 1 日
- ・ 総務委員会… 令和 6 年 6 月 26 日、11 月 14 日、令和 7 年 2 月 28 日

2 委員会等

(1) 情報委員会……下越薬剤師会にて

令和6年度は、次の4点について活動した。

① 下越薬剤師会ホームページのメンテナンスを行った。

当会HPの薬局情報のデザインを変更し、県薬データを優先するようにした。

② e-STock のサポートを行った。

e-STockによる不動態在庫医薬品売買説明会を行った。

e-STockを使った不動態在庫医薬品の支払い・請求データ作成システムを作成し運用した。

e-STockの不具合部分を集めて、変更を依頼した。

③ 下越薬剤師会支援センターの業務時に使用しているシステムに関して現状の把握と分析の作業を行った。

BCP（事業継続計画）の作成に関して草案を検討した。

現システムの今後の維持管理について検討した。

④ Zoomの使い方の研修を行った。

活動日・・・下記の計11回

令和6年4月5日、4月19日、4月25日、5月11日、6月21日、8月2日

令和6年10月18日、11月15日、令和7年2月21日、2月26日、3月15日

(2) 学術委員会学術研修会及びその他の研修会（6ページ参照）

・新発田地区・下越全体対象研修会・・・7回、参加人数195名

その他、単位が付かない研修会の案内は多数あった。

(3) 在宅委員会

・新潟県薬剤師会との在宅医療推進に向けた地域薬剤師会との意見交換会

令和6年5月18日